

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

青葉校

		チェック項目	はい %	どちらとも いえない %	いいえ %	無回答 %	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	36	27	0	37	
	2	職員の配置数は適切であるか	36	55	9	0	日々の職員数で努力している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	27	36	36	1	個別の児童に適した環境改善に努力している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	45	45	9	1	業務の意図を周知して、参画率の向上を図っている。
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	81	9	9	1	保護者の願いに即した項目で実施するようにしている。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	36	1	1	62	
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	18	9	9	64	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	63	27	9	1	適宜、必要な内容で実施している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	72	18	9	1	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	45	45	9	1	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	27	55	9	9	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	55	36	0	9	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	90	9	0	1	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	64	18	9	9	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	63	27	0	10	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	9	64	27	0	児童生徒の活動内容を記録して、読みあっている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	55	45	0	0	
関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断してガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	90	0	9	1	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	72	18	0	10	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	55	27	9	9	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	90	9	0	1	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	45	36	9	0	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	63	27	0	10	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	9	64	9	18	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	27	45	9	19	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	33	56	11	0	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	9	64	9	18	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	82	18	0	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	73	9	9	9	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	90	0	9	1	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	90	9	0	1	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	90	0	9	1	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	81	18	0	1	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	45	18	9	28	
	35	個人情報に十分注意しているか	81	9	0	10	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	72	0	9	19	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	72	9	9	10	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	55	18	9	18	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	72	0	9	19	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	72	9	9	10	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	45	18	9	28	現在、実際の事例はないが、必要な場合に備えて話し合う必要があると思われる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	72	18	0	10	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	82	0	9	9	口頭での共有にとどまっている。

中央校

		チェック項目	はい %	どちらとも いいない %	いいえ %	無回答 %	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100	0	0	0	教室の机の配置、セパレート等を利用し集中しやすい環境づくりへの工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	86	14	0	0	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	63	37	0	0	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	75	25	0	0	個別支援計画作成において、日々の学習や生活を広く話し合い、十分な情報の共有を行っている
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	86	14	0	0	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	38	50	0	12	
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100	0	0	0	
	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	86	14	0	0	個別支援計画等で保護者との十二分な要望の話し合いを行っている。
適切な支援の提供	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	75	25	0	0	
	10	活動プログラムの立案をチームで行っているか	38	50	0	12	
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	38	50	0	12	土日特別日課・特別日課等を利用し、活動の幅を広げている。
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	86	14	0	0	利用時間だけではなく、保護者の願いや本人の学習状況などに合わせてきめ細かい指導を行う
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	63	25	0	12	
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	63	0	0	37	
	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	63	13	0	24	
	16	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	75	13	0	12	
	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	13	50	0	37	
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	50	38	0	12	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	0	50	0	50	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	86	14	0	0	学校との情報共有・連携を重視し、積極的に行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	50	50	0	0	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	38	13	0	49	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	38	25	0	37	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	13	38	49	0	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	50	13	0	37	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	13	38	0	49	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	63	0	0	37	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	38	25	0	37	くき学園として、個別及び保護者会にて行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	50	13	0	37	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100	0	0	0	適宜、カウンセリング等を実施している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	38	25	0	37	年4回、積極的に実施している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	75	0	0	25	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	63	0	0	37	
	35	個人情報に十分注意しているか	100	0	0	0	倫理規定の下、職員全員に周知徹底させている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	63	0	0	37	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	25	38	0	37	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	88	0	0	12	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	88	0	0	12	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100	0	0	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	50	13	0	37	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	63	0	0	37	支援ファイルを作成し、また、アドバイスとして、当学園の指定医の秋谷医院と連携をし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	63	0	0	37	

二校

境・体制整	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	チェック項目				工夫している点、課題や改善すべき点など
			はい %	どちらともいえない %	いいえ %	無回答 %	
業務	2	職員の配置数は適切であるか	40	40	0	20	教室の机の配置、セパレート等を利用し集中しやすい環境づくりへの工夫をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	20	60	20	0	
	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	20	60	0	20	個別支援計画作成において、日々の学習や生活を広く話し合い、十分な情報の共有を行って
	5		60	20	0	20	

改善	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	60	20	0	20	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	20	60	0	20	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	40	60	0	0	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	40	20	0	40	個別支援計画等で保護者との十二分な要望の話し合いを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	20	40	0	40	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	0	60	0	40	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	0	60	0	40	土日特別日課・特別日課等を利用し、活動の幅を広げている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	40	20	20	20	利用時間だけではなく、保護者の願いや本人の学習状況などに合わせてきめ細かい指導を行っ
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	60	20	0	20	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	80	20	0	0	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	20	60	20	0	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	60	20	0	20	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断してガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	20	40	0	40	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	40	20	0	40	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	100	0	0	0	学校との情報共有・連携を重視し、積極的に行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	40	40	0	20	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	20	60	0	20	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0	60	0	40	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	20	40	0	40	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	60	0	40	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	80	0	0	20	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	40	40	0	20	くき学園として、個別及び保護者会にて行っている。
	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	60	20	0	20	
保護者への説明責任等	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行って	80	0	0	20	適宜、カウンセリング等を実施している。
	31	保護者の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	60	20	0	20	年4回、積極的に実施している。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	80	0	0	20	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	60	0	0	40	
	34	個人情報に十分注意しているか	80	0	0	20	倫理規定の下、職員全員に周知徹底させている。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	60	20	0	20	
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	60	0	40	
	37						

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	80	0	0	20	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100	0	0	0	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100	0	0	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	0	80	0	20	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	80	20	0	0	支援ファイルを作成し、また、アドバイスとして、当学園の指定医の秋谷医院と連携している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100	0	0	0	

栗原校

		チェック項目	はい %	どちらともいえない %	いいえ %	無回答 %	工夫している点、課題や改善すべき点など
境・体制整	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	60	20	0	20	
	2	職員の配置数は適切であるか	20	20	40	20	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	20	40	20	20	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40	20	0	40	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	20	0	80	0	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	20	0	80	0	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	20	0	80	0	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	40	40	0	20	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	20	60	0	20	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	0	80	0	20	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	0	80	0	20	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	60	20	0	20	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	80	0	0	20	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	80	0	0	20	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	80	0	0	20	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	80	0	0	20	
関係機関や保護者	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断してガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	60	0	0	40	
	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	60	0	0	40	
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	60	0	0	40	
	21	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	0	60	0	40	
	22	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0	60	0	40	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0	40	0	60	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0	40	0	60	

この連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	0	40	20	40	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	60	0	40	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	40	20	40	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	40	20	0	40	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	20	40	0	40	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	60	0	0	40	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	60	0	0	40	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	60	0	0	40	年4回、実施している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	60	0	0	40	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	0	60	0	40	
	35	個人情報に十分注意しているか	60	0	0	40	倫理規定の下、全職員徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	60	0	0	40	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	60	0	40	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	80	0	0	20	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	80	0	0	20	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	20	60	0	20	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	40	20	0	40	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	20	60	0	20	支援ファイルを作成し、また、アドバイスとして、当学園の指定医の秋谷医院と連携をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	20	40	20	20	

北校

		チェック項目	はい %	どちらともいえない %	いいえ %	無回答 %	工夫している点、課題や改善すべき点など
境・体制整	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	20	60	20	0	机の配置、仕切りなどを工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	0	60	40	0	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	0	40	60	0	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40	60	0	0	
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	60	40	0	0	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	40	60	0	0	
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	60	40	0	0	
	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	80	20	0	0	
適切	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	80	20	0	0	
	10	活動プログラムの立案をチームで行っているか	20	80	0	0	
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	20	80	0	0	特別日課、長期休みなど工夫をしている。
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100	0	0	0	特別日課をもうけて、きめ細かい指導を行っている。
	13						

な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	60	40	0	0	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	20	60	20	0	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	0	60	40	0	その日の様子、また、「生活の記録」に書かれている保護者からの情報等を適切に職員間で共有し、きめ細かい支援・指導へ繋げている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	40	60	0	0	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断して	80	0	0	20	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	40	60	0	0	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	40	60	0	0	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	60	40	0	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え	40	60	0	0	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	40	60	0	0	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	20	60	0	20	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	60	20	0	20	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	80	0	20	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	40	60	0	0	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	60	40	0	0	個別・保護者会において積極的に行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	80	0	0	20	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	80	20	0	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	80	20	0	0	年4回、実施している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	80	20	0	0	児童発達支援管理責任者、苦情処理責任者を中心に迅速に対処している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	80	20	0	0	
	35	個人情報に十分注意しているか	100	0	0	0	倫理規定の下、全職員徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	60	20	0	20	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	20	80	0	0	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	40	60	0	0	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	20	60	0	20	年2回、実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	60	40	0	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	60	40	0	0	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	60	40	0	0	支援ファイルを作成し、また、アドバイスとして、当学園の指定医の秋谷医院と連携をしている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	60	40	0	0		

職員の自己評価を研修会にて、再度確認をし、学園全体の課題解消に向け取り組んでいく所存です。そして、目の前の子どもたちへの指導支援に生かし、子どもたちの明るい未来に繋げたいと考えております。

職員で確認したことですが、放課後等デイサービス事業の存在意義は、①地域社会を変える、今の世の中を変える力を持っている。②人（子ども、保護者、地域の方々等）を変える力を持っている。③感動を味わわせる、感動を与える力をもっている。この3点を、今後も職員の合言葉とし、邁進いたします。

更にまた、子どもを守る危機意識については、下記のとおり、さらなる充実を図ります。

【危機管理のさしすせそ】

さ...最悪を想って
し...慎重かつ
す...すばやく
せ...誠意をもって
そ...組織で取り組む

子どもを取り巻く私たち大人は、子どもの身の回りに起こっている事態や危険性に、いち早く気づく敏感な感性と、起こった事案に対しての判断力、迅速で適切に対応する力が求められます。

早期発見、早期対応を行うためにも、まず、**普段から子どもの行動をよく観察し、日々の様子を把握しておくことが必要です**。そうすることで、子どもの様子がいつもと少し違うという前兆に気づき、「何か変だぞ。」と感じたその**タイミングを逃さない**で対応することができるからです。「ヒヤリハット」の提出。

しかし、日ごろから様々な配慮を行っていても、多くの子どもたちが生活する中で、トラブルが起こる場合もあります。もし、本学園で危機が発生したら・・・。自分ひとりで何とかしようと思わず、組織の一員として、最悪を想定し、慎重かつすばやく対応する。状況を的確に判断し、アセスメントするための事実確認や、情報の収集・共有など、適切な対応プランを立てるためにも重要で迅速な行動をします。すばやい対応は、被害の拡大(二次的被害、**風評被害**など)を防ぐとともに、学園としての誠意や信頼関係にも深くかわかり、非常に大切と考えます。

「**備えあれば憂いなし**」と言います。学園の中での危機対応の備えと、それ以上に、**敏感な危機意識**や、子どものことを考えた鋭い意識をもって日々対応を行うことが、危機を回避する大切なポイントになると思います。

危機管理の必要性

本学園幼児、児童及び生徒が安心して学ぶことができる安全な場所であればならない。

事件・事故は、いつ、どこで、誰に起りうるかわからない(予想することが困難である)。しかし、対策が無いわけではない。適切な対策を取ることによって、危機的状況の発生を防止したり発生時の被害を低減したりすることも可能になる。

本学園において、幼児児童生徒の障がいの程度の把握、それに伴う予想される行動などをチェックしておくことにより、大きな事故等にならずに……。

危機管理の目的

- 1 子どもの生命を守ること
- 2 子どもと教職員の信頼関係を維持し、日常の組織・運営を守ること
- 3 保護者や地域社会からの信用や信頼を守ること

普段から保護者とのかかわりをよくしておくことが重要

- ① こまめに連絡を取る(トラブルの時だけでなく普段から)。
- ② 子どもの良い面も伝える。
- ③ 保護者がイメージしやすい具体的なエピソードを伝える。
- ④ 保護者の苦勞を労う。
- ⑤ 学園や家庭でうまくいった方法を共有しておく。

子どもの成長を共に支えるという気持ちで保護者と協力関係を築いていくことが大切です。その上で、保護者と一緒に具体的なより良い支援のかたちを見つける努力をすることが……。

学園が、信頼を得るために

○教育の質を向上させること、幼児児童生徒の変容が日々あってこそ、実績と人間教育、幼児児童生徒・保護者が満足する特色を持たねならない。

○意識改革の速度は競争であること、人並みの努力では卓越性は得られない。

○福祉教育も究極指導員の質の向上の勝負であること

自分が気づき現実を直視すること、努力することである

研修の一部

障がい者の虐待防止研修 くき学園

障害者虐待防止法の目的

障がい者に対する虐待は、障がい者の尊厳を脅かすものであり、障がい者の自立や社会参加にとって虐待を防止することが非常に重要です。

このため、障がい者に対する虐待の禁止、国などの責任、虐待を受けた障がい者の保護と自立のための支援、養護者への支援などを法律に定め、障がい者の権利利益を守ることを目的としています。

「何人も、障害者に対し、虐待をしてはならない。」(法第3条)

対象となる障がい者とは？

身体障がい者

手や足、目や耳、内臓機能などに障がいがあり日常生活等に支援が必要な人

知的障がい者

生まれつき又は生まれた直後に脳が障がいを受けて知的な発達が遅れ、日常生活等に支援が必要な人

精神障がい者(発達障がいを含む)

統合失調症、うつ病、てんかん、自閉症など、病気や脳機能の障がいにより、日常生活等に支援が必要な人

その他

心身の機能の障がいや、社会的障壁により日常生活等に支援が必要な人

虐待の内容

1 身体的虐待

障がい者の体に傷ができたり、痛みを与える暴行を加えたり、正当な理由がないのに体を動かさせないようにする。たたく、殴る、蹴る、つねる、無理に引っ張る、しばる、閉じ込める、不要な薬を飲ませる

2 性的虐待

障がい者にわいせつな行為をしたり、させたり、見せたりする。
むやみに体を触る、服を脱がせる、キスをする、性器をさわる、性交をする・させる、
わいせつな話をする、わいせつな写真や映像を見せる

3 心理的虐待

障がい者を侮辱することばや拒否、差別するようなことばや態度などで、精神的に苦痛を与える
どなる、ののしる、悪口を言う、無視する、他の人と差別する、子ども扱いする

4 放棄・放任(ネグレクト)

障がい者に必要な食事、排泄、着替え、入浴などの世話をせず、障がい者の心身を衰弱させたり、長時間放置する
十分な食事を与えない、不潔な体・環境で生活させる、必要な医療や教育・福祉サービスを受けさせない、
1～3の虐待を受けていることを放置する

5 経済的虐待

障がい者の年金や財産を本人の同意なしに使うことや、必要な金銭を与えないこと
障がい者の年金や預貯金を勝手に使う、賃金や年金を渡さない、日常生活に必要な金銭を渡さない

障がい者虐待の防止のポイント

(1)障がい者虐待防止と対応のポイント

- ア 虐待を未然に防ぐための積極的なアプローチ
- イ 虐待の早期発見・早期対応
- ウ 障がい者の安全確保を最優先する
- エ 障がい者の自己決定の支援と養護者の支援
- オ 関係機関の連携・協力による対応と体制